2020奥大日岳(2605.9m)



雷鳥沢から雷鳥沢ヒュッテ・奥大日岳 (2605.9m)・大日岳 (2498m)



雨の中の雷鳥の親子 室堂乗越から雷鳥沢への途中



期 間 令和2年7月26日(日)深夜~7月29日(水)

参加メンバー 福澤卓三

コースタイム 7月26日 新宿バスタ (23:15)

7月27日 富山(5:50着)-立山(8:00発)-室堂

(9:30発)-雷鳥沢(10:15-10:45)-室堂乗越

(11:30) - 戻り(12:30) - 雷鳥沢(13:15)

7月28日 一日テントで停滞

7月29日 雷鳥沢(10:30発)-室堂(12:15発)-扇沢

(13:50-16:15) 新宿(21時10分)

記録 福澤 卓三

7月26日

車で行こうか、深夜バスで行こうか迷った。富山でも扇沢でも一人で運転するのは、 久しぶりで慣れないので気が重い。とりあえず深夜バスを調べてみると、なんと富山ま で1950円で行かれる。そして帰りは扇沢から新宿直通便があり即決定。

早めに予約をした。出発日が近づくにつれて天気予報があやしくなったが、予約もしたことなので、決行することにした。当日新宿バスタで自分が乗るバスの10分前に出発する便は3人しか乗っていない。3列シートでバス代が高いのである。

自分が乗った4列シートのバスは窓側は満席であるが、コロナ禍のため通路側に客をと らなかったためなのか空いていて横になれて珍しく熟睡できた。

7月27日

富山電鉄の電車が昨日脱線したため振替バスが出ていたが、遠廻りをして少し遅れて立山についた。登山客は少ない。

室堂についたころには雨になっていた。明日はもっと悪くなるはずである。

雨具を着て出発。雷鳥沢のキャンプ場の係の人が今のうちに、雷鳥ヒュッテに行ったほうが良いという。迷うようなことは言わないでくれ。テント等を事務所にデポして出発。 やはり夏である。寒くはない。別山乗越に比べ室堂乗越は楽であるが、二十歳代の体力を思い出して、比べるのは無理であるが気力は残っているらしい。

今回の目的は若いころ登った東大谷の偵察もある。また立山川へ夏に下れるルートの偵察もある。通販で買った50倍の双眼鏡が我家のベランダで試したら十分役に立つことがわかり持ってきたがガスがかかり、剣方面・立山川方面もみえない。晴れていれば真正面にばっちり見えるはずである。とりあえず奥大日方面に進んでみるが、雨が強くなり風も出てきた。何とか立山川方面の写真を撮りながらキャンプ場に戻った。途中でヒナが5匹いる雷鳥親子にあった。



立山川方面。草つきも急で悪い



今年は雪渓の雪も少ない





雷鳥沢につき、ロッジ立山連峰と雷鳥沢ヒュッテに偵察にいった。 ロッジ立山連峰は、温泉だけで宿泊施設はないとのことである。

雷鳥沢ヒュッテはコロナ禍のため大部屋の素泊まりはなく、個室で2食付きで15000円である。2泊なら3000円ではないかテント泊にきめる。雨も強くみじめであるが自分の山らしくていいではないか。大きな石をあつめてしっかり張り綱を張り明日の停滞の準備をして幕に入った。



メスナーのマイテント

7月28日 (テントで停滞)

朝から強い雨がっている。昨夜は深夜バスの疲れと久しぶりの山行で疲れていたせいかよく眠れた。ベルニナとメールのやりとりなどして一日すごす。それにしても、ベルニナのY・ENOKIとのバンコクとのメールのやり取りのレスポンスの早いことには驚かされる。こんな山の中でも日本でやり取りをしているようだ。しかしY・ENOKIはバンコクにいてもこんなものが食えると、すし・アユ・うなぎ・肉などうまそうな写真を送ってきて、酒はあるかと聞く。あるわけがないだろう。全く人が悪い。自分の部屋からバンコクの美しい夜景も送ってきた。どんな家に住んで、どんな暮らしをしているのだろう。昔ポカラであったさすらいの放浪青年はブルジョアになってしまったのか。

今回、メスナーのテントと雨が降りそうなのでセットのフライを持ってきた。 一滴の雨漏りもない優れものである。以前に使用していた40年前に購入したメスナーのテントは霜がつかないゴアテックスの生地でできていて多少重いが良いテントであった。長く使用していたので雨が降ると水分を含んで多少雨漏りがするようになったがフライを使用すれば雨漏りもしないだろうが、もったいないので使用していない。一日中寝て命の洗濯をした。

7月29日 雨が上がるのを待って濡れたものを乾かした。

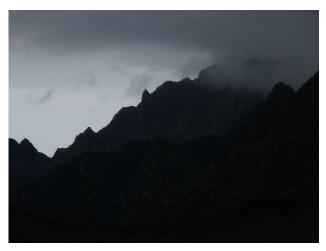








剣御前小屋



剣岳の稜線

ここまでくれば、1日延ばして天気の回復を待っても良いが、天気予報も芳しくないので帰京することにする。途中で写真を撮りながら室堂についた。扇沢まで登山者は一人もいなかった。そしてなんと扇沢から新宿バスタまでの高速直通バスは運転手と私ひとりであった。久しぶりに山を満喫した。